

# 見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

March 2016 vol.23

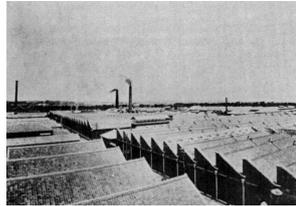
March						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

## ◆半田市役所（東南海地震被災の地の碑）

所在地：半田市東洋町

交通：JR 武豊線「半田」駅 東 700m

現在の半田市役所の建つ場所は、昭和 19（1944）年の昭和東南海地震で多くの犠牲者を出した中島飛行機山方工場<sup>やまがた</sup>のあった場所です。中島飛行機は、乙川<sup>おつかわ</sup>から亀崎にかけての広大な敷地に、本工場<sup>よしの</sup>、葎野工場の工場群と従業員の住宅や寮などを設け、戦闘機を量産していました。山方工場は、中島飛行機の当初の全体計画には含まれていませんでしたが、本工場の敷地の南に東洋紡績の知多工場があり、買収して航空機工場へ転用したもので、戦闘機の生産行程の中で、部品の製作、胴体や翼の組み立てなどを担っていました。（写真は、大正時代の東洋紡績の知多工場です。）



昭和東南海地震がこの山方工場や、同様に多くの犠牲者を出した葎野工場を襲った時の様子は、生き残った方の証言として数多く残されており、どれも当時の凄惨な状況を想起させるものとなっています。

「煉瓦建の建物は見事に倒壊していた。大きな煉瓦の塊で、取り除くにも大変であった。自分達も行ったが、なんとも致し方なくただ茫然と眺めていた。血に染まった人達が担架に、また木板に乗せられて運ばれていった。手足の骨が折れてだらりとしている者、何か言おうと口だけを動かしている者、悲惨な光景であった。救出も夕方までで中止された。暗くて何もできないからだ。煉瓦の下でまだ生

きている人がいるのかと思うと何ともいえない気持ちになった。」（東南海地震の被害と救済 内閣府）

「ものすごい地ひびきであった。建っていたレンガの工場は、砂の山をくたくさにサラサラと、レンガは全部落ちてしまった。（中略）大きな声も聞こえない。皆んな静かにしている。（放心状態が続いた。）地震が止ってから、横の広場の方に行ってみた。死んだ生徒、まだ息をしている人達が広場のコンクリートの上に次々と並べられ、レンガの下から血だらけになって助けられてくる挺身隊の人達など洞の中に首が半分入ってしまった男子生徒を見た。生き地獄とは、このようなことかと思った。」（ばれいしょ日記 鶴田すみえ）

半田市役所には、半田・平和記念碑建立実行委員会によって建てられた、昭和東南海地震被災の地の碑があります（写真）。碑には、「中島飛行機山方工場跡」「一九四四・一二・七 学徒従業員など犠牲者一五三人」と記されています。また、市内の雁宿公園には、亡くなった学徒を慰霊した「追憶之碑」や「殉難学徒之碑」が、市営の北谷墓地<sup>きたたに</sup>には、中島飛行機が亡くなった方を追悼した慰霊塔を引き継いだ石碑があります。（北谷墓地は、亡くなった方の遺体を野焼きで火葬した場所です。）こうした証言を読んだのち、当時の悲惨な情景を思い浮かべ、助けたくても助けられなかった方々の思いを感じながらこれらの碑を見ると、胸が熱くなる思いを禁じ得ません。



◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 半田市役所の周辺には…

### ● 雁宿公園（追憶之碑ほか2基）

所在地：半田市雁宿町

交通：名鉄河和線「知多半田」駅北西約800m

雁宿公園には、昭和東南海地震で亡くなった動員学徒らを追悼する「追憶之碑（右）」「殉難学徒之碑（中）」「半田・戦災犠牲者追悼平和記念碑（左）」が建てられています。

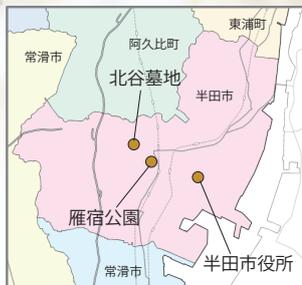


◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

### ● 北谷墓地（殉職者諸精霊之碑）

所在地：半田市柗町

交通：知多バス岩滑線「知多自動車学校前」南西約200m



中島飛行機は、東南海地震により、作業中に一命を失われた従業員、女子挺身隊、動員学徒などの霊を慰めるため、「震災殉難者之塔」（木製の柱）を建立しました。現在は石製の碑「殉職者諸精霊之碑」が建立されています。



## ★ 乙川祭り

乙川祭りは半田春の山車祭りの先陣を切って行われるお祭りで、現在では春の彼岸頃（3月の第3土曜日・日曜日）に行われています。宝暦5（1755）年に描かれた「乙川村祭禮絵巻」に祭りの様子が描かれており、名古屋城天



守閣石垣の工事を担当した加藤清正が、乙川村から産出した大石を荷車に乗せ名古屋まで賑やかに運んだ、という故事が始まりだともいわれています。

神輿にのった神様が、乙川八幡社から若宮社に渡御し、翌日還ってくるというのが乙川祭りで、この神輿を警固するために山車が曳き出されます。八幡社前の急坂での山車の坂上げと坂下ろしが一番の見所です。



「尾張の山車まつり」HPより

## 3月のあいちの花

平成28年3月のあいちの花はスイートピーです。スイートピーは、17世紀末頃にイタリアで発見され、ヨーロッパ各地で改良が進み、園芸品種が生まれました。日本には幕末頃に渡来したとされ、ジャコウレンリソウの和名がありますが、英名のスイートピーが一般的です。豆やさや是有毒植物で、口にしないよう注意が必要です。



## ● プレイクタイム ●

### ♪ 半田赤レンガ建物

明治22（1889）年5月、中埜酢店4代目・中埜又左衛門、敷島製パン創業者・盛田善平らにより、「丸三ビール」と名づけられた瓶詰めビールが半田から初出荷されました。これが後のカブトビールです。半田赤レンガ建物は、カブトビールの工場として明治31年に建てられたハーフトンバー（木骨レンガ造）の美しい外観を持つレンガ建造物で、設計は横浜の赤レンガ倉庫や横浜正金銀行も手掛けた明治建築界の巨匠・妻木頼黄によるものです。

外観意匠を変えないようにするため、壁の中に鉛直方向に孔をあけ鉄筋を挿入するという特殊な工法で耐震改修が施され、展示室やイベントスペース、復刻したカブトビールを味わえるカフェやショップとして利用されています。



『半田赤レンガ建物』

所在地：半田市榎下町8番地

交通：名鉄河和線「住吉町」駅徒歩5分

営業時間：10:00～17:00（年末年始休み）

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成28年3月）